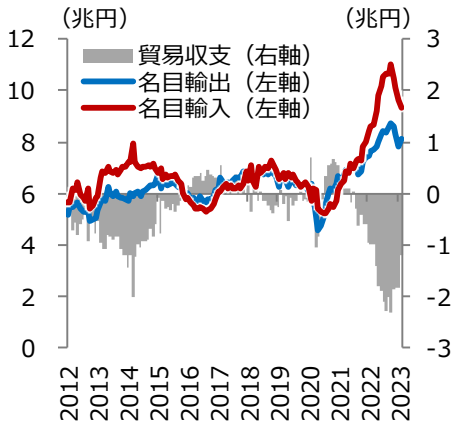
日本

貿易統計（2023年2月）

貿易赤字は縮小継続、輸出は中国向けが回復も米欧向けが低迷へ

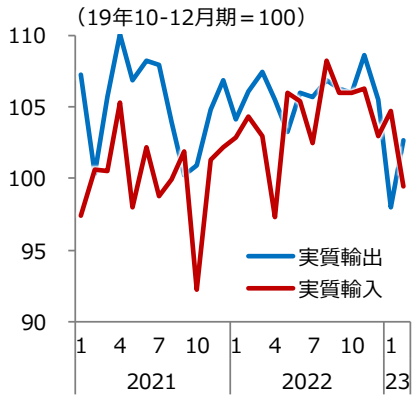
政策・経済センター
田中嵩大
03-6858-2717

1 名目輸出入・貿易収支



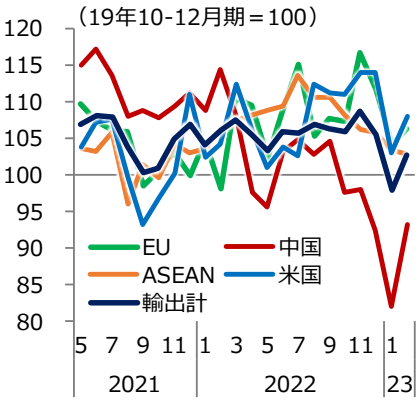
注：季節調整値。
出所：財務省「貿易統計」

2 実質輸出入



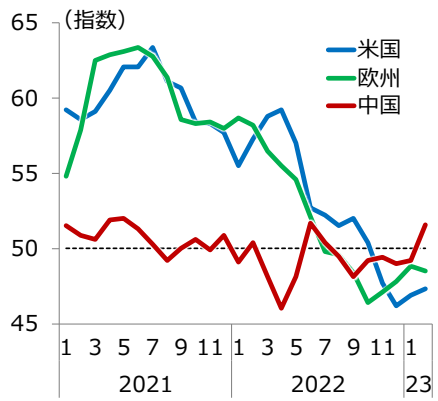
注：当社による実質・季節調整値。
出所：財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」より三菱総合研究所作成

3 実質輸出（地域別）



注：当社による実質値。欧州向けはEU加盟27カ国が対象。
出所：財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」より三菱総合研究所作成

4 主要国の製造業PMI



注：S&P グローバルPMI。欧州はEU加盟国。
出所：Bloombergより三菱総合研究所作成

評価ポイント

今回の結果

- 2月の貿易収支（季調値）は、▲1兆1,907億円と19カ月連続の赤字となった（図表1）。もっとも、名目輸出の増加（前月比+4.4%）と、名目輸入の減少（同▲3.0%）によって、赤字幅は前月から大幅に減少した（同▲34.7%）。
- 価格・為替変動の影響を除いた実質ベース（当社試算、季調値）では、輸入（前月比▲5.1%）が減少した一方、輸出（同+7.2%）が大きく増加した（図表2）。
- 実質輸出を相手国別に見ると、自動車を中心に米国向け（同+5.0%）が堅調に推移したほか、中国向け（同+13.8%）も前月比で増加した（図表3）。ただし、後者については、春節時期のズレの影響の影響が大きく、1-2月を均してみると、依然として低水準にある。

基調判断と今後の流れ

- 貿易収支は、円安・資源高の一服もあり、22年11月以降赤字の縮小傾向が継続しているものの、大幅な赤字が続いている。
- 2月までは、中国向けの回復が遅れる反面、米欧向けが減速感を強めつつも実質輸出を下支えしてきた。先行きは、中国向けの実質輸出は回復を予測する。中国の製造業PMIは2月に7カ月ぶりに50を上回り、生産・受注が増加している模様だ（図表4）。生産回復は今後、日本の対中輸出にも波及しよう。
- 一方、米欧向け輸出は低迷するだろう。米国・EUの製造業PMIは、22年後半から50を下回っている（図表4）。既往の金融引き締め効果が23年半ばにかけて本格的に顕在化することから、生産活動は低迷が続くことが予想される。
- 以上をふまえると、米欧経済の減速が強まる23年半ばにかけては、米欧向けの低迷と中国向けの回復が相殺し、実質輸出は横ばい圏内の推移が続くだろう。回復に転じるのは23年後半以降になると見込む。

Copyright (C) Mitsubishi Research Institute, Inc.